

第 29 号

平成17年  
4月30日

題 字  
植 木 満 会 長

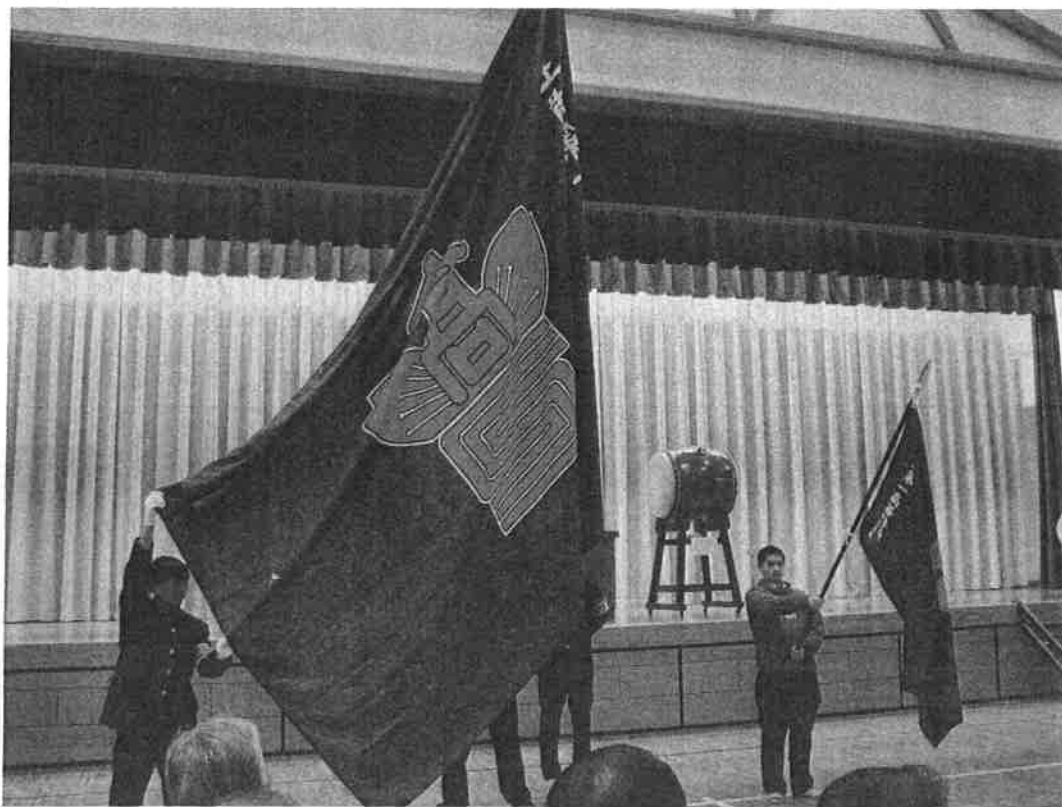
# 東 進

発 行 所

土浦一高東進会

(茨城県立土浦一高)  
進 修 同 窓 会  
東 京 支 部

事務局 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階  
宮崎法律事務所 TEL 03-3221-3711 FAX 03-3221-3713  
[http://www.geocities.jp/t\\_toshinkai/index.html](http://www.geocities.jp/t_toshinkai/index.html)



平成16年11月14日の校歌祭りで披露された新調校旗

土浦一高ホームページから転載

## 植木満東進会会長が辞意を表明

予てから足の不調を理由に大野理事長に辞意を漏らされていましたが、昨年の東進会総会のご挨拶の中で、「平成16年度をもって辞任したい」と改めて辞意を表明されていました。芳尾筆頭副会長が遠方、中村副会長が予定していた日時風邪で倒れたために急遽長戸副会長と大野理事長が植木会長宅を訪問し、会長の体調などをお聞きし翻意をお願いしましたが、欠かさずご出席されていた役員会に出席できないという責任感の強さ、歩行の不自由さと男の美学との葛藤ゆえに辞意が固いと受け止められました。

平成元年度、1都3県在住者に範囲を広げて新組織に衣替えしてから進修同窓会東京支部（平成3年から東進会と呼称）の支部長、会長をお引き受けただいて20年近い、その業績と感謝の言葉は別項に譲りますが、去る4月15日の役員会で新会長を大野金一理事長が兼務することを決定し、来る6月18日開催の総会で承認を受ける予定になっています。

## 本年度東進会総会・懇親会は 6月18日

6月18日(土)正午から学士会館で、昭和48・49年卒の当番幹事（補佐昭和49年卒）で開催されます。

今年度も母校から弦楽部の皆さんに演奏して貰うほか、懇親会のアトラクションとして、低音のシャンソン歌手海老原順氏とクリスタルボイスで昨年好評を博した宮本文幸氏の競演を企画しています。

お誘い合わせの上多数ご参加くださるようお待ちしております。

### 植木会長 有難うございました

土浦一高進修同窓会東京支部は、平成元年度に、東京都内在住者から神奈川、埼玉、千葉県在住者で都内に勤務する卒業生まで範囲を広げた新しい会則を定め、各学年幹事を中心に運営をすることにしました。その時、黒田武重支部長からバトンタッチされたのが植木満会長です。



植木 満 会長

会場も、植木会長の特別のはからいで東京プリンスホテルの大きな部屋を使わせてもらい、会員数3000名有余のところ150名程度の総会出席者があり、年会費も400名余の方から納めていただきました。

平成2年度には会報「支部便り」を創刊し、平成3年度には東京支部の通称を「土浦一高東進会」と定め、会報も「東進」と改め、その題字に植木会長の力強い揮毫をいただきました。現在に至っています。

植木会長は、東進会の役員会には必ず出席されて意見を述べられ、学年幹事会に出席された時は、幹事を叱咤激励して来られました。植木会長からは、会議のつごご寄付をいただき、総会に招待した母校の応援指導部や吹奏楽部、弦楽部などにも多額のご寄付をしていただき、生徒諸君から喜ばれました。

植木会長は、港区区議会の議長を務められたあとも90歳近くまで同区議を続けられ、平成15年秋の叙勲に際しては、その功績を認め

られて旭日小綬章を受章されました。

植木会長は、平成14年度をもって全ての公職、団体役員等を辞退され、東進会の会長も辞したいとの意向も伺っていましたが、奥様に言わせると、植木会長は、土浦中学・一高が全て、というくらい母校を愛していらっしやったので、東進会の会長だけは、と慰留したところ、会長の米寿のお祝いのために奥様もご招待した平成15年度の総会で、冒頭の会長挨拶で統投の決意を述べられたときは、一同ほっとしたものでした。

しかし、膝に違和感を訴えられてから、兼務しておられる進修同窓会副会長や東進会役員会に出席できない、歩行不自由な姿で東進会の会長としては顔を出せない、と、責任感が強く、いつも毅然と姿勢を正しておられる植木会長の言葉を聞かされると、それ以上ご無理をお願いすることはできませんでした。

今後は、東進会の一層の発展、充実のために、後輩が一層の努力をしていかなければなりません。植木会長には、4月15日の役員会で名誉会長として引き続きお願いすることになりましたので、今後とも、一層のご指導、叱咤激励をお願い申し上げます。

また、改めて、会長のご健勝をお祈り申し上げます。(大野記)

### 青山学院大学名誉教授

### 和田隆先生の御霊前に捧ぐ

土浦一高東進会常任顧問

土浦中学東進土中45回同窓会会長

渡 遺 光 夫

平成16年12月12日、私どもの敬愛する先生が逝去されたとの報に接し、先生と我々の63



和田 隆 先生  
平14. 6. 16 撮影

年に及ぶ師弟関係の深き縁を想い起こし、万斛の涙湧き出しました。ここに、謹んで先生の冥福をお祈り申し上げます。

ドイツの詩人カロツサは、「人生とは出会いであり、その出会いは一定の限られた人々しか招かれない。出会いを大事にせよ。」と申しておりますが、昭和16年3月、土浦中学の英語の先生として教師生活の第一歩を踏み出された先生と、同年4月、新入生として桜花爛漫と咲き誇る茨城県立土浦中学校の校門を潜った我々45回生との出会いは、誠に貴重な出会いでありました。

先生は担当の英語の授業のみならず、「少而学則莊而有為(わかくしてまなべばすなはちそうにしてなすあり)」と勉学の大事さを説くとともに、我々に全人的な教育を施してくれました。これが、我々教え子達が生涯先生を恵仰(けいぎょう)して己(や)まなかつた理由であると今改めて思います。

戦後、和田先生が青山学院大学の教授として「倫理」を講ぜられたこと、また和田アドグルを運営して、学生達に人間としての生き方を、直接指導されたこと等を考え合わせ、誠に宣(むべ)なるかなと思ひ、改めて感じ入っております。

先生は昭和18年軍隊に召集され、我々も昭和19年には阿見の第一海軍航空廠に動員学徒としてゼロ戦の修理の明け暮れで、昭和20年3月には4年終了で5年と一緒卒業させら

れる等、前後に例のない中学校生活を送りました。そして、8月15日に終戦を迎えた我々は、戦後の混乱期をお互いに励まし合いながら頑張つて参りましたが、昭和29年青山学院大学の教授をされていた和田先生と再会できたのは、誠に幸いでした。

爾来、先生と我々の交流は、枚挙に暇がありませんが、就中、平成7年4月10日、旧海軍航空廠、現陸上自衛隊隊ヶ浦駐屯地で、土浦中学45回生と土浦高女本科39回生が合同で挙行した「動員学徒の集い」は朝日、読売、茨城、常陽の各紙に報道され、刊行した動員学徒の記念誌「戦いのなかの青春」は、当時を物語る貴重な記録書として評価を得ていることは、誠に同慶の至りです。

先生の寄稿文「治にいて乱を忘れず」とご紹介された、イギリスの諺、「進んでやる人は、強制されてやる人の二分の仕事をする(One volunteer is worth two pressed men)」は現在の日本人にとって大事なことと痛感致します。この記念誌は、国会図書館、日比谷図書館、茨城県全市町村の教育委員会に寄贈したほか、先生のお力添えで大英図書館にまで収められたことは、我々にとって名誉なことでした。

また戦時下のこととして実施されることの無かった修学旅行も、土浦中学卒業56年後の平成13年11月7日、8日の両日にわたり挙行し、7日の夜は熱海のホテルで和田先生から「日本の将来を憂う、回顧と展望」の特別講義を受けることが出来たのは本当に幸いでありました。この修学旅行は読売、朝日、茨城、常陽、熱海の新聞各紙で大きく報道されたほか、静岡第一テレビの記者が7日、8日の両日密着取材し8日の「ニュースプラスワン静岡」で放映され、我々亀城健男児の心意気を示し

得たことは和田先生が居られたから出来たことでした。そして8日には十国峠で先生とともに校歌を声の限り歌って、青春を回顧しました。

さらに、平成15年6月14日、東京プリンスホテルで挙行された土浦一高東進会総会で、和田先生の卒寿を参加者一同でお祝いし、先生に感謝の辞を申し上げることが出来たのは、私どもにとつての想い出となりました。

平成16年7月18日、先生が病を得て入院されたとの報に接し、栗栖、大塚、渡邊の3名で木更津にお見舞いに参上し、さらに先生の満90歳の誕生日の前日、栗栖、大塚、大塚(光)、篠田、渡邊(光)の6名で誕生祝いに参上し、辞去に際して先生とともに校歌「沃野一望数百里 関八州の重鎮とて そぞりたちたり筑波山 空の碧をさながらに 湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水」を歌い、青春時代を回顧したのが最期のお別れとなりました。

「あたへられしすぐせなりけり玉の緒の  
長き短きは宿世なりけり」

と古歌にもありますが、先生とのお別れ、悲しきこと限りありません。されど先生の心は、血縁の皆様は勿論、我々の心の中で生き続けます。従って先生の心を我々の心の中に生かし続けるために、今後健やかに長生きすることが、先生に対する最大の回向と存じ頑張ります。尚、先生と我々の交遊記録と資料は、土浦一高の資料館に永久に保存され、定期的に一般公開もされることを改めてご報告申し上げます。

以上、和田先生と出会ってからの63年を回顧し弔辞と致します。

和田先生、どうぞ安らかに眠り下さい。  
平成16年12月21日 敬白

### 大野理事長が進修同窓会定期総会・祝賀式で祝辞

平成17年4月10日、母校体育館で行われた進修同窓会総会時の祝賀式において、東進会大野理事長は、次の祝辞を述べた。



大野 金一 理事長

卒業60周年・50周年・40周年・25周年を祝して  
今回、卒業60・50・40・25周年にあたる皆様をお迎えして盛大な祝賀式が挙行されますことを心からお祝い申し上げます。

本年創立108年目を迎える本校は、その伝統の上に更に向上を重ね、輝かしい実績を残してまいりました。これもひとえに、教職員の方々の情熱のこもった教育と、同窓会、PTA等関係者のご協力の賜物であります。一方、本校を卒業された方々も、土浦中学、土浦一高卒業を誇りにして、国の内外で、多方面において活躍しておられます。

今回卒業60周年を迎えられた皆様は、土浦中学時代のほとんどを正に大東亜戦争とともに過ごしたという、特異な体験をされたわけであります。途中から陸軍幼年学校へ入学したり、陸軍特別幹部候補生として、あるいは海軍甲種予科練習生として入隊された方もあり、本日ご出席の方々は、特に複雑な感慨をお持ちのことと存じますが、本日60周年を迎えられたことをお慶び申し上げますとともに、これからもご健勝であられますようお祈り申し上げます。

今回卒業50周年を迎えられた皆様は、戦後の復興と国際社会への復帰を経て、わが国の政治、経済、社会がこれから発展するということ、まだ豊かではないが希望に満ちた時代にこの学び舎で学ばれました。

その後、わが国は、高度経済成長を遂げ、東京オリンピック開催、東海道新幹線開通、日本人2人目のノーベル物理学賞受賞というような発展の時期に本校で学ばれたのが今回40周年を迎えられる皆様です。

昭和40年代、日本経済は安定成長の時代に入りましたが、学園紛争、列島改造、オイルショックなど社会の激動のあと本校で学ばれたのが、今回25周年を迎えられた皆様です。その当時から、県内では、つくば研究学園都市の形成につれて土浦を中心とする県南地方は、大きく様変わりしました。

しかし、時代こそ違っても戦後60年、100年有余の伝統に支えられ、自主・協同・責任の本学の精神に則り、本校は、総合的な力で全国でも優位を占め、注目されています。これからも、この充実した教育を維持し、更に発展させていきたいと思います。

最後に、皆様方には、これからも、郷土愛、母校愛を大切にしてくださいながら、ご健勝にてご活躍くださいますよう祈念し、お祝いの言葉といたします。

本日は、まことにありがとうございます。

### 茨城県人会連合会に東進会から多数参加

茨城県人会連合会の平成17年度賀詞交歓会は、平成17年2月10日赤坂プリンスホテルで開かれた。

茨城県人会連合会には、板橋・江戸川・葛

師・北・新宿の区県人会や文京・台東支部などの地域の県人会と県内高校同窓会などの団体で構成されているようであるが、組織はいまちはっきりしない。自然発生的にできた団体の寄り合いであろう。東進会としても平成12年から県人会連合会に参加している。

毎年2月初旬の赤坂プリンスホテルでの賀詞交歓会と7月初旬旧椿山荘での懇親会だけであるが、物産展的なものはあるが、特にアトラクションもなく、皆なんとなく集うという感じで、東進会の皆さんは誘ってもなかなか参加したがない。

今年の賀詞交歓会は、茨城県東京事務所の方が東進会の総会にも必ず出席していただいているので、東進会としてもっと多く参加しようと、当会常任顧問の渡辺光夫さんが呼びかけたこともあって10人ほど出席されました。

他校の同窓会も参加しているので、異業種のみでなく、同窓会同士の交流にも、よい機会であるので、多くの方が出席されるよう期待しています。

### つくばエキスポプレスは8月24日開通

県人会賀詞交歓会でも展示されていたが、秋葉原とつくば市を45分で結ぶエキスポプレスは、8月24日に開通する。

茨城県内の住宅地開発計画が大幅に縮小されたため、毎日の通勤利用者が少ないと母体の第三セクターの経営が心配されるところではあるが、運賃は、現在運行している高速バス以下に抑えたいというのが展示場での説明であった。

東進会の謳粋会80回を数える  
78回目は埼玉の酒蔵見学などを実施



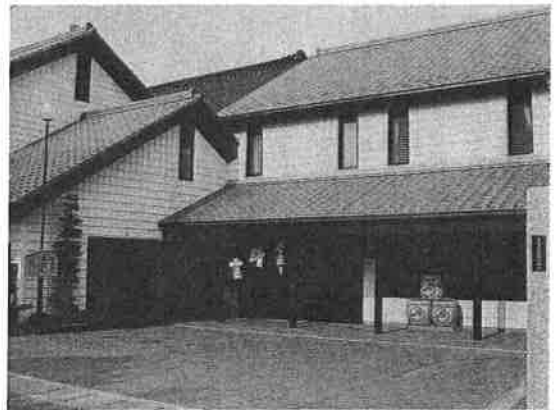
篠田謳粋会 会長

東進会謳粋会は、平成10年9月の大塚「玉淀」以来、毎月開催され、平成17年4月の土浦「花月楼」で80回となりました。篠田謳粋会会長(中45回) はじめ関係者の皆様方のご尽力にあらためて謝意を表明します。その中でも「玉淀」さんには平成14年5月末に閉店するまでの間、21回もお世話になり、経営していた坂本善之氏(高8回)には重ねて謝意を表明します。

78回謳粋会は篠田会長の事前現地偵察により、平成17年2月11日に東武東上線沿いの埼玉県小川町に15名が集まり開催の運びとなりました。

当日は埼玉伝統工芸館と晴雲酒造の酒蔵を見学後、近くの料亭で地元の食事とお酒を楽しみました。土浦方面以外では初めての日帰り郊外であり、皆様方から好評を博しました。最近の謳粋会は、通常、毎月第2木曜に開催し、その案内は過去に参加した方々に実施しております。新たに案内を希望される場合には善処いたしますのでご連絡願います。

電話 031355619787  
FAX 031355619788



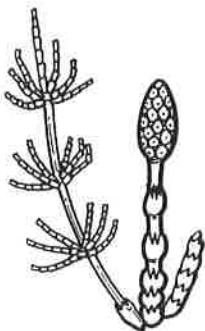
78回目にお世話になった晴雲酒造(株)

80回におよぶ開催場所と参加人員は、それぞれ次のとおりであります。

- 第1回 大塚・玉淀 17名
- 第2回 大塚・玉淀 11名
- 第3回 大塚・玉淀 10名
- 第4回 銀座・ファゼンタ 30名
- 第5回 大塚・玉淀 15名
- 第6回 四谷・美味小家 6名
- 第7回 大塚・玉淀 16名
- 第8回 牛久・牛久シャトー 22名
- 第9回 大塚・玉淀 14名
- 第10回 銀座・わらすこ 11名
- 第11回 東駒形・駒形どぜう 13名
- 第12回 銀座・リトル沖繩 8名
- 第13回 赤坂・四川飯店 11名
- 第14回 大塚・玉淀 19名
- 第15回 銀座・イタリー亭 8名
- 第16回 新宿・市ヶ谷ハウス 17名
- 第17回 大塚・玉淀 17名
- 第18回 新宿・かこみ 10名

- 第19回 大塚・玉淀 15名
- 第20回 土浦・ふじ吉 22名
- 第21回 大塚・玉淀 15名
- 第22回 大塚・玉淀 14名
- 第23回 銀座・アルテリーベ 17名
- 第24回 大塚・玉淀 17名
- 第25回 新宿・マトリョーシカ 15名
- 第26回 大塚・玉淀 21名
- 第27回 国立・かゆや 14名
- 第28回 赤坂・ペンディオロッツ 14名
- 第29回 大塚・玉淀 21名
- 第30回 高田馬場・ありのみ 12名
- 第31回 大塚・玉淀 26名
- 第32回 土浦・ふじ吉 23名
- 第33回 新橋・越州 16名
- 第34回 大塚・玉淀 16名
- 第35回 市ヶ谷・嘉多蔵 16名
- 第36回 大塚・玉淀 20名
- 第37回 新橋・摩耶 9名
- 第38回 大塚・玉淀 22名
- 第39回 大塚・玉淀 19名
- 第40回 六本木・春秋 15名
- 第41回 大塚・玉淀 22名
- 第42回 四谷・美味小家 14名
- 第43回 大塚・玉淀 14名
- 第44回 土浦・やまとや 18名
- 第45回 京橋・長谷川 12名
- 第46回 池袋・李白 11名
- 第47回 銀座・酒の穴 9名
- 第48回 銀座・リトル沖繩 13名
- 第49回 赤坂・四川飯店 17名
- 第50回 上野・じゅらく 11名
- 第51回 池袋・黒潮 16名
- 第52回 池袋・六歌仙 13名
- 第53回 池袋・バスタマニア 15名
- 第54回 台場・薬(はなしべ) 18名

- 第55回 荻窪・酒膳屋 12名
- 第56回 土浦・霞月楼 27名
- 第57回 神田・ニュー本郷 16名
- 第58回 西浅草・飯田屋 13名
- 第59回 湯島・北上 17名
- 第60回 西池袋・おもしろ 20名
- 第61回 池袋・パリの朝市 17名
- 第62回 巣鴨・田村 21名
- 第63回 新宿・大庵 13名
- 第64回 両国・ももんじや 14名
- 第65回 日比谷・松本楼 28名
- 昭41年卒一八会と共催
- 第66回 赤坂・うまや 18名
- 第67回 西日暮里・アルハムブラ 20名
- 第68回 土浦・霞月楼 24名
- 第69回 渋谷・オスロ 18名
- 第70回 日比谷・きくかわ 14名
- 第71回 銀座・ライオン七丁目店 17名
- 第72回 銀座・竹富島 13名
- 第73回 池袋・アルコ 16名
- 第74回 白山・五右エ門 15名
- 第75回 上野・旦妃楼飯店 16名
- 第76回 上野・高田屋 19名
- 第77回 末広町・花ぶさ 22名
- 第78回 小川町・永徳屋 15名
- 晴雲酒造と埼玉伝統工芸館見学
- 第79回 千駄ヶ谷・カオチップ 19名
- 第80回 土浦・霞月楼 26名



# いんぷおめーしょん

## 飛行船ツェッペリンNT号 土浦に飛来 着陸・係留してからの一般公開は中止

ツェッペリンNT(ニューテクロロジー)号とは、最新の素材と技術により、ドイツ「ツェッペリン」社が開発した世界最大の飛行船で、その環境保護にやさしい特性から(株)日本飛行船が愛知万博(愛・地球博) 広報活動などのため全世界で保有3機中の1機をドイツから導入したものである。

土浦市では76年前のツェッペリン伯号の寄港にちなみ、大々的な歓迎行事を企画、本年2月5日水郷公園での歓迎式典、2月6日に陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地における日本で初めての一般公開を実施することになった。

2月5日の当日、NT号は係留基地である埼玉県桶川市のホンダエアポートから強風のため離陸できず飛行不能となり、水郷公園での市長挨拶など歓迎式典は主役不在のまま挙



土浦上空を飛行中のツェッペリン号 平17.2.6 撮影

行された。

2月6日は、午前10時頃、霞ヶ浦駐屯地上空に飛来し、10時半頃から数回にわたり空中で停止した状態での方向変換、船体を大きく前傾させてのお辞儀、一時着陸と方向変換、そのとき操縦士の姿を披露してからの離陸と機動性を十二分に発揮した。当日の観客は主催者発表で約2万人、大変な混み具合であったがNT号の演出は好評であった。

前日の影響を受け、着陸・係留支援用車両などの土浦への手配ができなくなり、一般公開が中止されたのは残念であったが、土浦活性化の起爆剤となったのは間違いない。霞ヶ浦湖畔に飛行船基地を建設し、NT号が愛知万博の広報を終了した後、この基地に誘致し、都内への観光遊覧事業や飛行船製造事業の育成を行う構想もあるようなので、これが具現化されることを期待したい。

## 色川 弘 先輩(昭23年中48回卒)

### 「甲子園への道 土浦一高野球の記録」

— 県下聯合野球大会100年記念企画 —  
茨城県中等学校野球史 [明治編]

自費出版



土浦中学野球部出身の色川弘氏は、誠文堂新光社を退職後、00年に「土浦中学野球の記録」、01年にその「別冊増補・土浦中学野球

の記録」を出版した。今回は旧制中学から高校に移行する48年(昭23年)以降をまとめて昨04年に出版。

本書前半は、土浦一高が初めて甲子園に進出した57年(昭32年)夏とその前後の活動にスポットをあて、当時の指導者と選手、女子マネージャー達の座談会と寄稿文などから構成されている。登場人物としては全国的な有名人や、東進で紹介したり、東進に寄稿している方々もあり、興味深いものがある。後半には、48〜03年にわたる95試合などの諸記録と全選手名簿がある。

本書が刊行された04年は土浦中が主唱して県下野球大会が始まってから100周年にあたり、巻末には茨城県中等学校野球史「明治編」も収められている。

このように大変な力作でありますので、同窓の諸兄諸姉に紹介させていただきます。

残り少なくなりましたが、購入を希望される方は、亀城クラブ(野球部OB会)事務局・森川勝信氏(昭49年高26回卒)(自宅TEL 029・869・0181)あて連絡願います。

初版 平成16年6月 A4判 224頁  
補訂版 平成16年10月 A4判 240頁  
編集・発行 色川 弘  
頒 価 2000円(送料別500円)

## テレジンのイニシアティブ日本支部 林 幸子 代表(高14回)の活動

林さんは、平成14年9月の日本支部発足以前から東進23号8頁でも紹介したようにテレジンの啓蒙活動を行ない、発足後は支援金の贈呈なども実施している。



林 幸子 代表

これに関し、NHKは平成16年8月3日、BSハイビジョンで110分の間「テレジン強制収容所・いのちの雑誌、少年たちが残した800ページ」を放映し、多くの反響を得た。現在、林さんは、より多くの人々がみることのできる総合テレビジョンにおける再放映をめざし、賛同者の署名簿を添えて行うNHKへの要望実現と、新たにチエコで刊行されたテレジンの子供関係図書の本権取得に努力している。

日本支部の会員に対するニュース発行だけでも平成17年3月までに6号に及び、チエコの本部に対する支援金などが明確に記載されている。

これらの諸活動は子を思う親あるいは子供に対する大人の気持から発生しているものであり、「よく頑張っているな」と感動せざるをえない。

チエコ共和国の「テレジンのイニシアティブ」活動を日本で精神的・経済的に支援するため、同窓生からも既に相当数が日本支部の会員になっている。

年会費は1口10000円以上、入退会は自由であり、東進会としても応援したい。

入会にご賛同いただける方は、直接、林さんに連絡されるようお願いいたします。

連絡先 携帯電話  
090-17718-5134

## 世界一周アス力紀行(5)

昭和31年卒 中村信秀

## 北欧の船旅

バルト海は海の汚れランクでは世界の最上位にあるといわれている。確かにバルト海の沿岸には商工業都市が多いが、しかし、初夏ながら濃い緑の森も豊富であった。また北海のノルウェー北部のフィヨルドと氷河の清涼感と神秘性は一日の朝昼夕深夜のその変化に富む情景を十分に楽しませてくれた。

北欧14日の旅の初日は5月21日夜半、キール運河を経て白夜のバルト海に出た。まだ日は高く、河口周辺の濃い緑の景色は自然の豊かさを感じさせる。そよ風は冷たいが海は静かで緑豊かな湖での遊覧の気配すらする。こ



(白夜のバルト海)

の海域が汚れの最高位とはとても感じられない。

22日(水)早朝、海面に20基ほどの風力発電がゆつくりと回っているコペンハーゲンの沖合いにきている。うす曇りの中、海は薄青色で、これらの風車群を左手に大きく旋回し8時にコペンハーゲンの港に入港した。

港の近くの人魚姫、ゲフィオンの泉をチラッと見て50km北のヘルシングボリのクロンボ1城を訪れた。小ぶりではあるが外堀、内堀のある海辺の立派な城である。歴史記念品等の展示品皆無の閑散とした室々が続く。床はかなり分厚い板張りであった。この城は北欧の歴史的闘争の中心地で、またハムレットの原材でもある。実在の王子AMULETHの末尾のHを頭に移しHAMULETとしたそうである。何やらあの薄暗い悲劇の舞台装置がそのまま冷え冷えと目の当たりに在る様だ。この城を見ただけでコペンハーゲンにきた甲斐があった。

次の寄港地はロシアのサンクトペテルスブルグで、風は15mと強いにもかかわらず海はべたなぎの穏やかな航海を経て、24日(金)早朝、小雨の中ネヴァ河の湾内に進入した。重い雲が垂れ込めた河口から遥か東方に日の出の明かりで照らされた市街の様子が伺える。気温は4℃と寒く、厚手のトレーニングウェアを着込みひと汗かいた後一人ジャグジーに浸りながらサンクトペテルスブルグの街並みを眺めた。全体にくすんだ石作りの重厚な古都という趣だ。午後市内観光のツアーに参加、バロック調の寺院、修道院、王宮跡の美術館、公園、繁華街、鳥々を結ぶ大橋の数々をバスで限なく案内された。初夏の午後の街は何処も散策の市民であふれている。所々で石造りの建物の修復が進んでおり、歴史遺産を根気

よく修復している様子がかがえる。

夜、グランドホールでサンクトペテルスブルグ・バレエ団の小品を鑑賞。何十年ぶりにバレエの実演を楽しんだ。

25日(土)10時快晴、向かいのアパート群から家族連れが三々五々めかして出かけ始めている。今日は300年1年前建都記念日とかで広場、公園は人で溢れている。午後エルミタージュ美術館ツアーに参加した。美術館前の広場では大楽団が盛んに演奏をし、太目のソプラノ歌手の歌声が響き渡っている。エルミタージュ美術館は5棟からなる広大な規模で、今回はヨーロッパ印象派のごく一部を覗きただけであるが、ロシア女性ガイドの案内も良く全身に絵をまとった気分になった。ローレック、モネ、セザンヌ、ピサロ、ゴッディン、ゴッホ、マチス、ドガ、ピカソ等もりだくさんで、その後レンブラントの部屋に行きその数の多さに圧倒された。あつという間の4時間であった。船では夕食後サンクトペテルスブルグ室内楽団の管弦楽団トリオのすばらしい演奏を聴く。深夜12時出港、ストックホルムに向かう。

26日は濃霧のバルト海を終日航海し27日(月)朝4時、目の前に岩と森の景色が見える。静かな海、スウェーデンのストックホルムの島々の中に入っている。海に面した岩が森にせり上がり、森は険しさが無く丘といった程度だ。明るくなるにつれて緑が増し森も深みを増してきた。ところどころに一軒家が海辺についている。ボート係留所を備えている家もある。7時、街らしき様相が見え始めた。大きなヨットハーバーがある。飛鳥は森の中の海を滑るように進む。遥か森の中にストックホルムの市街が見えてきた。郊外の丘に

は高層マンションがそびえている。8時、吹奏楽団の歓迎を受けて入港、早速あのノーベル賞式典で知られている市庁舎に向かった。祝賀用のホール、金箔モザイクの黄金の間、コブラン織の間と室内庭園と丁寧に造られた様子が伺える。市街は広い市場やら綺麗な商店街、ショッピングセンターがまとまっており、平日にも拘らず大変な賑わいだ。とてもゆつくりと安心して散策できる心地よい雰囲気であった。

夜ロシアン・フォーク・インストルメント・カルテット(バラライカ、アコードオン、ソプラノドムラ、アルトドムラ)の素晴らしい演奏を堪能した。早速彼らのCDを手に入れ感動を今一度と試みたがやはり生には敵わず、楽しみは半減であった。

28日(火)深夜2時30分出航しドイツのワイネミュンデに向かう。海は滑らかで、空は薄明るく海鳥が飛んでいる。東の空にたなびく雲がうつつらと赤焼けしている。午前3時30分森の合間に朝日はぱっと覗きすぐに消えた。島々の海辺の家々がつきりと見える。4時20分朝日とその帯がともに小さな窓に差し込み、狭い船室を通り抜け、入り口の白いドアを照らしている。早朝ウォーキングの人がちらほらしてきた。午後、あまりの暖かさに誘われてデッキに出てみたら、船はスウェーデンの本州とエーランド島の狭い海峡を航行中だ。左手の島に小さな街が見え、大きなフェリーが3艘停泊している。北欧は今まさにバカンスの季節に入りつつあるようだ。

29日(水)6時霧が濃く何も見えなかったが、7時河口の突堤が見えてきた。ワイネミュンデは港とリゾート海岸があるだけの小さな町のような。左手10kmほど先に原発が白煙を上げていている。その奥には5機、10機と発電風車

がゆつくりと回っている。今日はベルリン・ポツダムの観光に参加する。港の目の前の田舎駅より貸切の東ドイツ製のアンチークな列車でベルリンにノンストップで南下する。山は皆無のなだらかな平野が続き、麦畑と菜の花畑と牧場と森が限りなく広がっている。西ヨーロッパの田園とまったく同じ風景だ。ベルリン東駅に到着後東側の市中を迂回し記念として残してある東西分断のコンクリート壁やブランデンブルグ凱旋門を見る。その後国会議事堂、大統領官邸、マリエン教会、カイザーウエルヘルム教会等を見たが、なんと言っても森の都ベルリンを実感した。さらにポツダムは森と湖の静かな街で、特にポツダム会談のツェインホーフ宮殿は森に囲まれた湖畔の静かな佇まいであった。95年までソ連KGBが占拠し恐怖弾圧をもっぱら施行していたとは想像がでなかつた。

30日(土)6時散歩がてらワイネミュンデの駅向うの繁華街に出てみた。歩道のきちつとある石畳の道路の落ち着いた商店街で、パン屋さんが5、6軒開いており、市民の皆さんが買いに来ている。街中のパン屋の店先でカルガモの雄雌がパンをねだっていた。さわやかな午後また街に出てシヨッピングやらビールやらを楽しんだ。午後6時過ぎ出航のパーティが始まり、岸壁には200人ぐらいの人々が見送りに集まっており、船よりテープをふんだんに投じている。銅鑼が鳴り汽笛が鳴り響く。隣に停泊している英国の豪華客船AURORAが見送りの汽笛を鳴らすなかゆつくりと出航した。船の人と見送りの人が個々にテープで繋がっているのが分かる。私は男の子とおばあさんのお二人に繋がったテープを強く引き、互いに手を振って別れを楽しんだ。これからカデガット海峡を抜けて北海に

出てノルウェーに向かう。

6月1日(土)4時起きしてノルウェーのフイヨルドを見ようとしたが曇りで薄暗くはつきりしない。8時ベルゲンに入港。ベルゲンは小高い岩肌のうっすらと木が生えている島々と10000mクラスの山々に囲まれた船舶工業、商業と観光の都市だ。小さい街だが港も道路もよく整備されている。狭い港には家族連れで遊びに来た4、50フィートほどのボートが所狭しと係留されている。ほとんどの真向かいに13世紀のハンザ同盟に由来し、世界遺産に登録されている木造で切り妻屋根のブリッケン地区がある。昼前の日差しは明るくほど良い暖かさを感じる。港の奥の広場で開いている市場は観光客も混じってごった返ししてお祭りのお祭りのお祭り。午後9時、まだ日の高い明るいベルゲンをあとにフロムに向き出航する。

11時、北海への出際、島々は低い丘の形成となり、その岩の丘が海にのめり込んでいる。12時、辺りは薄暗くなり小高い岩山の島の連なる海峡に変わってきた。深夜ソグネフイヨルドに入り、200km奥のフロムに朝8時に入港の予定だ。

6月2日(日)1時白夜、海面はいぶし銀のようだ。島々はさまざまな形をした黒い塊の造形だ。時が過ぎ海はさらに白くいぶしが掛かり、島々は黒さを増す。ところどころに赤くともる家々の灯りは星のようだ。空がうす雲に覆われてきた。

3時、10デッキのビスタラウンジはすでにカメラ、望遠鏡を持った人で満員だ。薄明かりの中で目の前に切り立った岩が立ふさがる。ソグネフイヨルドの真つ只中にある。切り立った岸壁がゆつくりと左後方に流れる。岸

壁の中ほどから落ちる細長い一筋の滝が見えてきた。岩山の裾野には猫の額ほどの濃緑の傾斜地がある。2軒のとま屋がへばりついていて。更に奥の岩山の裂け目に幾分か緑の地が広がりがり、5軒の家と30頭ほどの羊が群がっている。やつとへばり付いている様な木々に覆われた岩山が連なり、その岩山の縦の裂け目に大小の白い滝が次々と現れる。船は山々に囲まれ、空は明るく風はない。5時、空と山々が鏡のような水面にそっくり映っている。時々カモメの鳴き声が響く。船は左右の山の急傾斜の稜線が重なる谷間をあたかも襟元を開くようにゆつくりと音を潜ませて進んでゆく。と、まだら模様の雪の山々が現れた。まず先にY字の右手の末端のグドバンゲン側に入り込む。高さ5、600mのぐるり周りの山々の山頂にはまだらな乳牛模様の雪が残っている。湾の中ほどで船を反転し、バック推進で更にバンゲンの村近くまで入り込む。鏡のようだった水面が一気に乱れた。次に左手の入り江の今日の停泊地のフロムに向かう。右ドックレックして、更にスケールの大きなアウランフイヨルドに進入する。

7時半フロムに入港。フロムは人口500ほどの小さな登山観光の港で、港を囲んでいる山々にははさんさんと朝日が差している。その山々には大小の8つほどの真つ白い滝がほぼ垂直に流れ落ちている。小さなバースの対岸を幅30mほどの谷川が山奥の水を集め村を抜けて海にこんこんと流れ込んでいる。

今日はフロム登山鉄道パノラマツアーに参加する。直接フロム駅より登山電車で登頂する組と、バスで山頂へ行き帰り電車でフロムへ降着する組の二手に分かれて出発した。我々はバス組で、先ず中腹のスタルハイムの山頂ホテルに行き、雪の残る山々と滝と草原の

パノラマを眺めながら、ゆつたりとした昼食を済ませた。その後ベルゲン・オスロ間のボス駅より鉄道でミュルダールへ。ここよりフロム行きの登山鉄道に乗り継いだ。電車は標高870mのミュルダールから道程22kmの山間の急勾配をグルグル回りながら約1時間掛けて降る。途中落差100mぐらいのヒョースの滝や渓谷を眺めフロムの駅に降りる。帰船締め切り午後5時の5分前に帰着、絵葉書も買えずに早々乗船した。

午後6時フロムを静かに出港し、ゆつくりとした船足で左手の入り江深く入り込み、静かなたたずまいのモンデル村よりジョスダール水河を目の当たりに眺望する。水河の断崖面が青白く見える。静寂の中にしばしとどまり額縁のない静止画の景色を楽しんだ。船をゆつくりと反転させスコットランドのエンジンバラに向かった。



(ジョスダール水河)

# 平成17年度の大学進学状況

本年度合格者の特徴は、第一に国公立大の合格者が146名と大幅に増えたことである。もともと土浦一高の場合は国公立志望が多い。

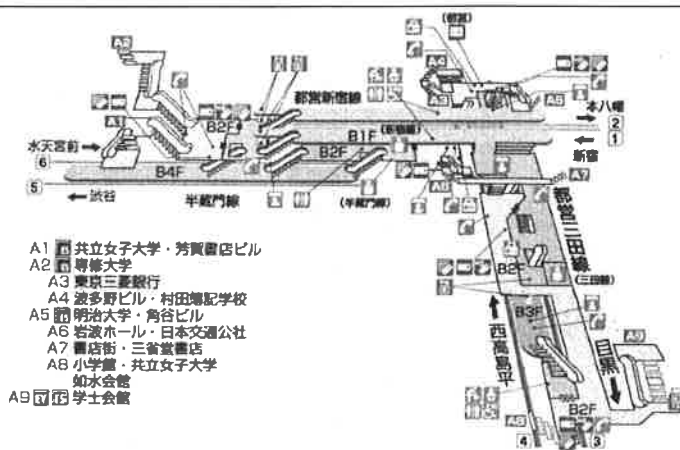
第二の特徴は、東大への現役合格者が減少したことであろう。本校の進路指導部の説明によると、毎年5名以下の国公立医学系の合

格者が本年は11名と増え、毎年少ない京都大に6名合格しているが、その影響であろう、ちなみに、ライバル校の現浪全体の合格者は、岡崎高28名、浦和高27名で土浦一高は公立高で3位である。(もちろん各校の生徒数は異なる。)

入試年度	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	合格者	新卒	合格者	新卒	合格者	新卒	合格者	新卒
大 学								
北海道大	13	7	4	3	6	1	1	1
東 北 大	22	15	32	20	23	13	28	21
茨 城 大	7	4	5	4	9	8	9	8
筑 波 大	36	23	44	32	49	37	41	38
千 葉 大	6	5	11	6	10	7	10	5
お茶の水大	3	3	3	3	4	3	4	2
東 京 大	33	24	32	22	29	20	26	15
東京外語大	5	3	1	1	3	2	4	3
東 工 大	13	9	12	7	15	7	6	6
一 橋 大	8	5	5	4	9	6	11	7
横浜国大	1	1	8	3	3	3	9	6
大 阪 大	2	0	3	1	2	1	2	1
京 都 大	8	3	4	1	3	1	6	6
そ の 他	35	14	33	16	34	13	29	16
国立大計	192	116	197	123	199	122	186	135
青山学院大	20	12	16	6	12	9	13	9
学習院大	13	5	8	5	11	8	12	10
慶 応 大	66	44	51	27	76	33	56	29
国際基督大	4	3	3	2	2	2	3	2
上 智 大	30	20	19	18	37	16	15	5
中 央 大	40	16	32	15	36	11	46	23
津田塾大	5	4	10	8	10	8	7	4
東京女子大	16	10	13	6	11	7	13	9
東京理科大	86	30	113	46	95	40	71	37
日本女子大	7	4	14	8	11	4	11	7
明 治 大	50	21	46	18	49	20	50	27
立 教 大	35	23	38	22	39	20	29	16
早稲田大	92	43	99	57	144	68	89	58
法 政 大	20	9	34	16	20	11	18	6
そ の 他	117	45	191	56	165	55	131	70
私立大計	661	289	687	310	718	312	564	312
公立大計	12	8	9	6	14	8	13	11
大学校系	4	2	4	2	4	1	1	0
そ の 他	2	1	3	0	0	0	0	0
総 計	871	416	900	441	935	443	764	458

## 学生会館案内資料 地下鉄神保町駅構内図

最寄り出口A9



## 編集後記

東進は過去数年の間、年3回発行してきましたが、予算上の制約により前号から年2回となりました。このため多くの寄稿、資料提供を頂きながら、時期遅れとなったものがあり、申し訳ありません。

次号は、総会終了後10月頃に発行する予定です。今後もよろしくお願いたします。